

このままでいいのか・・・とっている人へ

経済学部経済学科 田中翔梧
(兵庫県立 尼崎高等学校出身)

1.大学入学前はどのように過ごしていましたか？

高校時代は陸上部に所属し、日々の練習に真剣に取り組んでいました。自己ベストを更新することもあった一方で、大会で目立った記録を残すことはできず、特に重要な場面で結果を出しきれない状況が続いていました。今になって振り返ると、「これくらいでいいだろう」と甘えてしまう部分があり、最後までやり切る意識や自分を追い込む姿勢が不足していたと感じています。

2.上級キャリアコースに入ったきっかけ・理由は？

というわけで、自分の中途半端な部分を変えたいという思いはありましたが、具体的にどう行動すればよいか分からないまま大学受験を迎えました。結果として、第一志望の大学にはあと数点足りず不合格となり、これまでの詰めの甘さがそのまま結果に表れてしまったと感じました。

このままではいけないという思いを抱きながら大阪産業大学に入学しましたが、そこで上級キャリアコース(以下、上キャリ)の存在を知りました。コースの説明を聞く中で、学業を軸に高い目標を持って努力できる環境や仲間と切磋琢磨できる点に魅力を感じると同時に、これが自身にとっての最後のチャンスになると感じました。これまでの課題であった最後までやり切る力や継続して努力する姿勢を身につけたいという思いから、コースへの参加を決意しました。

3.大学で急成長できた理由は？

主体的に行動せざるを得ない環境に身を置いたことにあると感じています。上キャリでは、自分から動かなければ何も得られず、これを少しでも怠れば周囲との差が広がってしまいます。つまり自ら調べ、考え、行動しなければ生き残れない競争的な環境なのです(「知らなかった」、「聞いていない」は禁句です。何でも先回りして学生自身で対応する義務があります。空気を読む義務もあります)。そんなコースに入ったことを後悔したこともありましたが、徐々に、自身を追い込み最後までやり切るとはどういうことなのかを本当の意味で理解できるようになっていきました。

大学入学前も懸命に頑張ってきたつもりです。ですが、どこかに甘えがあり、「最後は許してもらえよう」とか「助けてもらえよう」という受け身の姿勢がなかったという嘘になります。上キャリで甘えがあると、最後はクビになるだけです。いや最後ではなく、即座・その場ですね。事実です。だからこそ、これまでの自分を変えられたのだと思います。

4.上級キャリアコースで辛かったことは？

周囲とのレベルの差を感じたときです。講義や課題のレベルが高く、少しでも気を抜いてしまうとついていけなくなり、理解が浅いまま次の内容に進んでしまうこともありました。一度遅れてしまうとその差を取り戻すのが難しくなり、気付いたときには置いて行かれています。こうならないためには、日々の自身の努力のみならず仲間との助け合いが重要です。実際、上キャリアでは予習・復習は基本であり、それにくわえて仲間との自主的な勉強会が実施されています。

注意しておきたいのは、大学入学前と同じことをやっていれば、そのときと同じ結果しか得られないということです。もしあなたが、本気でこれまでの自分を超えたいと思っているのであれば、これまでのやり方や意識を完全に改めてください。

5.上級キャリアコースの先生ってどんな人？

どなたも、学生に対して本気で向き合ってください先生達だと感じています。学生が本気で努力しようとする姿勢や熱意を見せれば、最後まで丁寧に指導してくださいます。だからこそ、中途半端な気持ちでコースに入ると悲惨な結果が待っていることとなります。先生方は、コース学生が本気であることを前提として対応なさいます。さらには、HP に記載されているあらゆる注意事項などを完全に承諾した者だと前提して対応なさいます。前提が満たされていない場合には、居場所はなくなることになるでしょう。上キャリアとは、本気でやる気のある者だけが所属できるコースだからです。